

地域ポイント制度「ちばシティポイント」実証実験の八千代市との共同実施について

千葉市では、平成30年7月より、市民公益活動、健康維持・増進活動などの促進を目的として、民間企業と連携した利便性の高い地域ポイント制度の導入に向け、「ちばシティポイント」の実証実験を実施しています。

令和元年10月15日より、本実証実験について、八千代市と共同実施することとなりましたので、お知らせします。

1 連携の経緯

八千代市がイオン(株)との包括連携協定締結及びご当地WAONカード「やっちWAONカード」の発行にあたり、地域ポイント制度の実証実験実施を検討。

両市で協議の結果、八千代市の地域ポイント制度実証実験についても「ちばシティポイント」として千葉市と共同実施することとなった。

2 連携内容（連携イメージは別紙のとおり）

(1) 共通のシステム、事務局を活用しての運営

現在「ちばシティポイント」の運営に使用しているシステム、事務局を共同運営する。

(2) ポイントの共通化

「ちば風太WAONカード」「やっちWAONカード」いずれのカードでも共通のポイントを貯められる仕組みとする。

例：Aイベントの参加者は、「風太」「やっち」いずれのカードでもポイントがもらえる

(3) 交換商品の共通化

「ちば風太WAONカード」「やっちWAONカード」いずれのカードに貯めたポイントでも共通の商品に交換できる仕組みとする。

例：「京成バラ園入園券」を交換商品に追加

3 連携により期待できるメリット

(1) 利用者の利便性の向上

ポイント付与メニュー、ポイント交換メニューの増加により、市民の利便性が高まる。

(2) 参加者数の増加

参加者数の増加により、市民公益活動、健康維持・増進活動などの一層の促進が見込まれる。

(3) ポイント流通量の増加

ポイント流通数の増加により、ちばシティポイント実証実験の目的の一つである「地域のプラットフォーム化」が進むことが期待できる。

<参考>地域のプラットフォーム化とは

ポイント流通量が増えれば、制度に参加する市民も増えていく。多くの市民、企業が制度に参加し、日常の活動の様々な場所で地域ポイントが発行され、使える状況になる（地域ポイント制度が「地域の基盤」となる）ことを「地域のプラットフォーム化」と言っている。

(4) 運営費用の負担軽減

事務局、システムの共同利用により、運営費用の負担軽減が見込める。

4 その他

本件については、八千代市でも同日に記者発表を行っています。

問い合わせ先 八千代市商工観光課 047-487-1151（内線3571）

＜参考＞ちばシティポイント実証実験について

(1) ちばシティポイントとは

ちばシティポイントは、市民公益活動、健康維持・増進活動などの促進を目的として、平成30年7月から実証実験として実施している千葉市の地域ポイント制度。

＜特徴＞

ア 様々な活動に対して共通のポイントを付与

インセンティブとして共通の地域ポイントを付与することで、「新規参加」「活動継続」「横展開（多くの活動への参加）」を促進。

イ 利便性の高い仕組み（既存電子マネーカードの活用）

既存の電子マネーカード「ちば風太WAONカード」に地域ポイントが貯まり、貯まった地域ポイントを電子マネー「WAON」に交換して利用できる。

(2) 運営状況（令和元年8月末現在）

参加者数 約18,000人

対象事業 95事業（開始時は28事業）

＜市民公益活動＞

市の施設やイベントでのボランティア等に加え、シニアリーダー活動、学校セーフティウォッチャー、市ボランティアセンター登録ボランティア等も対象に追加

＜健康維持・増進活動＞

健康イベント等に加え、ウォーキング、各種健康講座受講等も対象に追加

＜市の施策の推進＞

パラスポーツイベントに加え、救命講習受講、WEBアンケート回答等も対象に追加